

見学調査報告書

テーマ : 横浜港の開港と港湾都市の形成、貿易の展開と産業発展について
ゼミ名 : 村上 研一ゼミ (日本経済論)
調査日 : 2019年12月6日(水)
調査先 : 横浜開港資料館、港湾関連施設および史跡
授業科目名 : 演習 I・II
参加学生数 : 15名(3年)

調査の趣旨(目的)

日本経済の近代化の起点となった日米和親条約と開港に関連して、その歴史的舞台を訪ね、当時の国際関係や産業の状況について知見を得る。さらに、開港後の貿易関連資料の閲覧や、港湾都市の形成とそこでの商業や物流業の展開についての資料の調査に基づいて、国際貿易の拡大と関連した産業発展、港湾都市の形成について学ぶ。

調査結果

横浜開港資料館にて、横浜開港をめぐる国際関係や幕府の対応、開港場の建設、開港後の貿易の動向についての概要を学んだうえで、史跡や港湾関連施設の実地見学を行った。開港場は、東海道神奈川宿から離れた「出島」として築かれ、外国人居住地・商館と日本人商館とが区分され、主要な輸出品である生糸の集積・保管・出荷に便利な港湾関連施設が建設されたことが分かった。さらに、隣接して三菱重工横浜造船所が築かれ、海運業の展開と相関して造船業さらには重化学工業の発展がみられた事情が明らかになった。当初見学予定であった神奈川県立歴史博物館の見学は取りやめ、学内での事前学習、および三菱重工横浜造船所跡地の見学に切り替えた。

